

北海道縦貫自動車道の優先整備区間 (登別室蘭IC～伊達IC間)の早期事業化

(国土強靱化地域計画掲載事業)

現状と課題

北海道は近年、頻発・激甚化する台風による大雨災害、暴風雪・地震・津波などの自然災害時に発生する交通障害、多発する交通事故、道路施設の老朽化などの様々な課題を抱えており、北海道の強靱化を推進し、道民の安全・安心な生活を確保するためには、高規格幹線道路ネットワークの機能向上が必要不可欠です。

令和元年9月に国土交通省により策定された「高速道路における安全・安心基本計画」の中では、高速道路の安全性、信頼性や使いやすさを向上する具体施策として「暫定2車線区間の解消」が掲げられ、北海道縦貫自動車道の暫定2車線となっている区間のうち、西胆振地域では、登別室蘭IC～伊達IC間が優先整備区間として選定されており、自然災害発生時における交通ネットワークの代替機能確保の観点、現状の対面通行の解消による事故防止の観点、さらには、移動時間の短縮による地域の生産性向上の観点から早期の事業化が望まれます。

要望内容

- 登別室蘭IC～伊達IC間（延長23km）の早期4車線化
- 当面の緊急措置として、同区間のうちの対面通行区間（延長18km）への安全対策



優先整備区間の延長

区 間		暫定2車線 IC間延長	うち 対面 通行区間延長
登別室蘭	室蘭	10km	8km
室蘭	伊達	13km	10km

事業効果

- 地震・津波などの大規模災害時における交通ネットワークの強靱性の確保
- 高速交通ネットワークの安全性・信頼性の向上
- 農業・工業・観光など地域産業の生産性の向上